

編集後記

6月です。あっという間に春が過ぎ初夏になってしまいました。最近はずっと良い春や秋のような私たちが過ごしやすい季節がどんどん短くなり、猛暑の夏が長くなり、寒暖の変化も大きくなってしまいました。『眼科』読者の皆様も季節の変わり目の体調管理にはくれぐれもお気をつけください。

さて、今回の特集は「眼底視野計の進歩」です。眼科医なら誰しも眼底病変を直接観察しながらその部位の網膜感度（視野）を測れたらと思ったことがあるはずです。そのアイデアから始まった眼底視野計も、ようやく実臨床で簡単に使える時代になってきました。もちろん電子機器やレーザー走査型検眼鏡などの光学機械の進歩がなければ、こんなに簡便に測れるようにはならなかったはずですが、その開発には日本人の眼科医の先達の果たした役割も非常に大きいものです。また、眼底視野計は単に病変部位の正確な感度測定とい

うだけでなく、ロービジョンでの偏心視訓練にも利用できることを眼科医は認識すべきだと思います。

綜説では、自称「眼科の機械屋」で Heads-up surgery (HUS) 関連の電子基板も自作される愛知医大の白木幸彦先生に HUS を解説していただきました。眼科手術医の多くに長時間の悪い姿勢の維持から腰痛者が（私も含めて）多いと聞きます。HUS は手術教育以外に眼科医の健康管理にも役立つものですが、まだ解決すべき課題も残っています。もうひとつの綜説は白内障術後眼内炎に関する欧州の学会のガイドラインで、多根記念眼科病院の井上智之先生にその要点の解説をお願いしました。抗菌薬の前房内注射を含む多くのエビデンスとその評価（オッズ比）は非常に有用です。今春入局の新後期研修医への手術の準備の説明のためにも是非ご一読いただきたいと思います。きっと役に立つはずです。（三村 治・記）

編集：飯島裕幸・富田剛司・坪田一男・後藤 浩・雑賀司珠也・門之園一明・三村 治
編集顧問：所 敬・小口芳久・白井正彦・澤 充・谷原秀信・岸 章治

「眼科」 第60巻 第6号 6月号

2018年6月5日発行（毎月1回5日発行）
定価（本体2,800円＋税）

年間講読料金 定価（本体42,100円＋税）
〔年間13冊（臨時増刊号を含む）の誌代〕
〔年間予約購読者に限り送料無料〕

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14

Tel 03 (3811) 7165〔編集室直通〕

Tel 03 (3811) 7184〔営業部直通〕

FAX 03 (3813) 0288

ホームページ <http://www.kanehara-shuppan.co.jp/>

振替口座 00130-1-191269

印刷所 横山印刷株式会社 Tel 03 (3622) 6161

広告申込先 福田商店 Tel 06 (6941) 5600

- ・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

- ・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-3513-6969、FAX：03-3513-6979、e-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。